

対象年度	令和 7年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート					
事務事業名	観光振興事業					予算事業名	観光振興事業費	
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令
総合計画体系	歴史と自然を育みにぎわいと活力ある産業を目指そう						事業の区分	主要事業
	地域資源を活用したにぎわいと交流の促進							重点事業
	地域資源を活用した観光の振興						担当課係等	商工観光課 観光係
事業期間	継続(年度～年度)							
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】					【事業開始のきっかけや他市の状況など】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源及び広域観光を活用した観光振興を図る。</li> <li>・訪日外国人を含む観光誘客の推進及び観光振興による地域活性化を図る。</li> <li>・市内商業者の観光事業への取り組み強化を図ることにより、観光振</li> </ul>					<p>観光協会への支援を行う一方で基盤整備は自治体が担っているのが一般的である。また、近年においては、広域連携による観光振興も推奨されており、これに取り組む自治体も多い。</p>			
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】					【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を網羅した観光パンフレット等を配布し、観光誘客のアピールとして活用する。</li> <li>・観光協会に対する補助</li> <li>・観光物産センターを充実させ販売を促進する。</li> <li>・姉妹都市などの関係都市のイベントに参加し、観光誘客活動を行う。</li> <li>・インバウンドへの対応</li> </ul>					<p>訪日外国人を含む観光客、市内商業観光事業者</p>			
					【事業をとりまく環境の変化】			
					<p>交流人口の増加や地域経済の活性化を図るための手段として「観光振興」が求められているほか、コロナ後のインバウンドの復活も見据える。また、携帯端末の普及により、紙媒体からインターネットを最大限に活用した電子媒体での情報発信が主流となっており、これに関する基盤整備も喫緊の課題である。</p>			
【令和 7年度 事業内容】			【令和 8年度 事業内容】			【令和 9年度 事業内容】		
商業観光振興計画に基づく各種事業を推進する。 ・観光協会への事業補助 ・パンフレット印刷 ・各種事業に関する需要費等 ・外国語表記の看板設置(1,000) ・夏祭り(仮設トイレの設置)(300)			商業観光振興計画に基づく各種事業を推進する。 ・観光協会への事業補助 ・パンフレット印刷 ・各種事業に関する需要費等 ・外国語表記の看板設置(1,000) ・夏祭り(仮設トイレの設置)(300)			商業観光振興計画に基づく各種事業を推進する。 ・観光協会への事業補助 ・パンフレット印刷 ・各種事業に関する需要費等 ・外国語表記の看板設置(1,000) ・夏祭り(仮設トイレの設置)(300)		
■事業費								
財 源 内 訳	R05年度		R06年度					
	国	庫	支	出	金	0	0	
	県	支	出	金	0	0		
	地	方	債		0	0		
	そ	の	他		0	0		
	一	般	財	源	10,902	14,005		
歳入計(千円)			10,902	14,005				
歳 出 内 訳	節(番号+名称)		金額(千円)	金額(千円)				
	07	報償費	203	368				
	08	旅費	280	312				
	10	需用費	1,099	1,229				
	11	役務費	0	30				
	12	委託料	0	3,435				
	13	使用料及び賃借料	726	719				
	14	工事請負費	682	0				
	18	負担金補助及び交付金	7,912	7,912				
歳出計(千円)(A)			10,902	14,005				
伸び率(%)				28.46				
備 考	総合計画92ページ 予算書141～142ページ							

# 令和 5年度行政評価シート

## ■指標

種類	指標名	単位	R05年度	R06年度	R07年度
活動指標	観光物産センター来館者数	人	目標 13,000.00	13,100.00	13,200.00
			実績 11,706.00	0.00	0.00
成果指標	伝統工芸館来館者数	人	目標 1,500.00	1,550.00	1,600.00
			実績 1,016.00	0.00	0.00
成果指標	協会実施イベントの精査・調整	実施	目標 1.00	1.00	1.00
			実績 1.00	0.00	0.00
成果指標	観光入込客数（県が年単位での発表のためそれに合わせる）	人	目標 500,000.00	550,000.00	600,000.00
			実績 438,900.00	0.00	0.00

## ■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	イベントの実施を中心とした観光事業を行う協会への補助、観光客に対する基礎的インフラの整備等の観点から事業実施は必須である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	イベント実施に係る経費、基本的な観光情報の提供、観光基礎インフラの整備は行政が行うべきである。
	手段の妥当性	A 妥当である	様々な観光資源を活用し、観光誘客に力を入れている。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	商業観光振興計画に基づき、費用対効果が大きい施策の実現を目指す。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	直接的には観光客、事業者に資する事業であるが、イベントの実施により市民に活力を与えるとともに、最終的には税収の伸びが市民に還元され経済の好循環がもたらされるため偏りは生じない。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	様々な観光資源を活用し、観光来客数は増加している。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	観光振興策にゴールなし。今後は効率的な事業実施のために、観光協会を含めた外郭組織の抜本的な組織改革も視野に入れる。

総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください

事業費中、大きなウエイトを占めている協会補助金に関しては、実施事業の見直しを絶えず行う。また、稼げる観光を念頭に外郭組織の統合を視野に入れるが、合意形成に時間を要することが予想される。

対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか

商業観光振興計画に掲げられた「稼げる観光」の実現に向け、事業者の意識改革、外郭団体の組織改革を両輪として実行する。

## ■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充） 改善改革しながら継続 現状のまま継続（改善・改革なし） 統合・新規事業への展開  
縮小 休止 廃止・終了 予定どおりの要求 一部改善の上要求 今回は見送り その他の処置

方向性の具体的な内容

アフターコロナ時代になり、観光客は増加傾向になる。また、訪日外国人によるインバウンドにも対応できる体制を構築する。稼げる観光を目指すことで、事業者の意識改革や外郭団体の組織改革を促進する必要がある。

2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充） 改善改革しながら継続 現状のまま継続（改善・改革なし） 統合・新規事業への展開  
縮小 休止 廃止・終了 予定どおりの要求 一部改善の上要求 今回は見送り その他の処置

企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）

財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。